

図書案内

2020年 11月号

担当 1-3 石崎 1-3 山本

ほっこりする本

11月です。寒い日が増え、ほっこりしたくなってきた頃だと思います。ということで、今回は「ほっこりする本」を選びました。「ほっこりする」と聞いて思い浮かべるものはたくさんありますが、私たちは絵本を取り上げてみました。やわらかなタッチ、なつかしいお話に触れて、ほっこりしてみてもはどうでしょうか。図書館にはほかにもたくさんの絵本があります。ぜひ利用してください。

『3匹のかわいいおおかみ』 ユージーン・トリビザス

「3匹の子ブタ」を知っている人は多いと思いますが、こちらはどのような。物語の流れとしては「3匹の子ブタ」とほぼ同じで、一見なぜ書かれたのか分からないように思えるかもしれませんが、しかし、この作品は、家の壊し方に現実味があったり、ブタとおおかみの立場が入れ替わっていたり、ひと味違った内容になっています。結末もほっこりエンドでありながら、一方で非常に深い内容を私たちに語りかけてくる作品です。(山本)

ところがこのブタ、わるいのなんのってもうとんでもないわるブタだったんです。



『どうぞのいす』 香山美子

このお話は、あるうさぎがつくったひとつの小さいいすを中心に、様々な動物が登場します。その動物たちは、「どうぞのいす」と書かれた看板を見て、そのいすに置いてあるものを貰うのですが、その代わり、自分たちが持っていたものを置いていき……。様々な可愛らしい動物たちがやってきて、同じようなことを繰り返す展開が印象に残ります。柔らかなタッチで描かれた絵は秋にぴったりの一冊だと思います。(石崎)

でも からっぽにしてしまっちは あとのひとに おきのどく。

『おさるのジョージがっこうへいく』 M&H.A.レイ

子どもの頃に読んだという人も多いのではないのでしょうか。アニメ化もされ、世界中で絶大な人気を誇っています。様々なシリーズがありますが、この本では、ジョージが騒動を起こしながらも学校の子どもたちと協力して解決していくというお話が書かれています。短時間で読めて気持ちもほっこりするのです。勉強の合間に読んでみてはどうでしょうか。(山本)

ジョーシは、いいことをおもいつきました。



『はらぺこあおむし』 エリック＝カール

きっと、多くの人が読んだことのある作品だと思います。実はこの絵本、作者が妹のために書いたものなのです。おなかぺこぺこの小さなあおむしがいっぱい食べて大きくなり、やがて……。最後のイラストが印象に残ります。絵本ならではのやわらかな絵や、「読めるおもちゃ」と呼ばれる仕様の面白さに釘付けだったのを思い出します。なつかしいこの本をぜひ読み返してください(石崎)。

あっ、ちょうちょ！



「ほっこりする」って？

私たちは、家族愛の本やペットの愛らしい姿を見て「ほっこりするなあ」と感じますが、そもそも「ほっこりする」とは何なのでしょう。もしかすると、心が温かくなるという意味だけで捉えている人もいるかもしれませんが、広辞苑第七版によると、「あたたかなさま」のほかに「もてあまして疲れたさま」と書かれています。つまり、「ほっこりする」前の状態はストレスにさらされていたということになります。実は、イギリスのある大学の研究チームによると、6分間の読書は現代人のストレスの68%を軽減させる効果があるとか。このことをふまえてみると、短時間で読める絵本(少し長めの作品がおすすめ)を読むことは、「ほっこりする」のに最適と言えますね。課題や模試、考査で疲れがたまってくる時期ですが、この機会に図書館にある絵本を読んで効率よく脳のストレス解消を試みてはいかがでしょうか。

